

東京都瑞江葬儀所火葬炉設備選定プロポーザル提出書類等作成要領

本プロポーザルに参加する者は、東京都瑞江葬儀所火葬炉設備選定プロポーザル実施要綱（以下「実施要綱」という。）及び東京都瑞江葬儀所火葬炉設備基本仕様書（以下「基本仕様書」という。）に基づき、以下の通り書類等を作成することとする。なお、書類等の記載表現は自由とするが、文書は簡潔に分かりやすく、図面は見やすい表現とし、専門用語を用いる場合は、可能な範囲で本文中又は本文外に説明を付すこととする。また、文献を引用した場合は、出典元（名称、ページ等）を明示することとする。

1 様式入手先

東京都建設局ホームページ (<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/index.html>) からダウンロードし入手すること。

2 参加表明について

(1) 提出書類

- ① 東京都瑞江葬儀所火葬炉設備選定プロポーザル参加表明書（様式1）
- ② 会社概要（様式2）
- ③ 納入実績（様式3）

(2) 書式について

- ① 参加表明書のため作成する書類のうち、様式の指定がない（任意様式等）ものについては、文字を横書きとし、文字サイズは10.5pt以上とすること（図表中の記載はこの限りでない）。枚数、行数、カラー仕上げ、用紙方向等は自由とするが、用紙サイズはA4判とすること。
- ② 提出書類は、様式1を表紙として一括左綴りし、A4判片面印刷とする。
製本方法、用紙及びファイルに綴じるか否かは自由とする。ファイルに綴る場合の表紙、背表紙には、「東京都瑞江葬儀所火葬炉設備プロポーザル参加表明書」との表題と、会社名のみ記載すること。
- ③ 添付書類は、該当する様式に続けて綴ること。

3 技術提案について

(1) 提出書類

- ① 東京都瑞江葬儀所火葬炉設備選定プロポーザル技術提案書等提出書（様式5-1）
- ② 技術提案書表紙（様式5-2）
- ③ 基本仕様書「1 火葬炉設備の基本方針（以下「基本方針」という。）」に対する提

案書（任意様式とする。（1）、（2）については5枚程度、（3）～（6）については2枚程度とする。）

基本方針の各項目について、考え方や方策等を項目ごとに示すこと。

- ④ 技術提案書（3）以外は任意様式）。※A4判縦とし、1）は10枚程度、2),4),5),6）は2～3枚程度、7）は任意枚数とする。

- 1) 基本方針に対する技術提案（考え方や方策を項目ごとに示す）。（任意様式）

貴社の基本コンセプトと特徴を示すこと。

なお、提案の中に仕様書に記載する各項目（設備）について「(1)主燃焼炉」から「(13)計装設備」までの各項目について、各設備の概要と特徴を具体的に示すこと。任意様式において、「(2)再燃焼炉」については、提案の排ガス滞留時間を確保している理由、「(4)排ガス冷却設備」については、提案する冷却方式を採用した理由、「(5)集じん装置」については、提案において最大排ガス量の通過速度を確保している理由を必ず記載すること。なお、提案内容に応じて基本設備に記載のない設備（基本設備に相当する設備）を追加する場合も同様とする。

なお、任意様式での作成にあたり、様式の右端最上部に東京都から指定された整理番号を必ず記載すること。以下の任意様式も同様とする。

- 2) 日常の故障に対する考え方、どのような対策を講じるか（任意様式）。

貴社の考え方を示すこと。なお、運営にあたり故障が発生した際の対応及びサービス、補償範囲の考え方については必ず触れること。

- 3) 維持管理費・長期修繕計画に対する提案（様式6 瑞江葬儀所火葬炉設備長期修繕計画）（30年分の更新・修繕・点検とする）。

貴社の火葬炉設備に関するすべての部品を含む長期修繕計画について、提案すること。（予期しない故障や事故等の復旧に係る費用を除く）。なお、この項目については少なくとも15年間については保証項目とする。

- 4) 非常事態にどのくらい火葬ができるか。また耐震性についてどのように考えているか（任意様式）。

貴社の考え方を示すこと。

- 5) 近隣住民に対してどのように寄与・貢献できるか（任意様式）。

貴社の考え方を示すこと。

- 6) 導入事例における飛灰の実績値（測定記録に基づく）を示すこと（任意様式）。

瑞江葬儀所と類似の住宅密集地に設置された火葬場の実測値を、具体的に3か所以上の事例で示すこと。測定火葬場名、火葬場使用開始日、測定日、燃料等必要な情報を提示のこと。

7) 火葬炉設備燃焼計算書（任意様式）

基本仕様書の「2(1)③設計重量」で設定する火葬対象の燃焼計算資料等を提出すること。

以下の事項に留意すること。

- a. 計算には別紙2「火葬炉熱計算基本要件」（以下「要件」という。）の数値等を用いること。
- b. 要件「1 2 燃焼計算区分」ごとの計算結果を1枚の表にまとめるとともに、全体の合計等が分かるようにすること。
- c. 計算式の記載について、ある数字を他の計算結果から引用しているときは、引用元を明示する、色分けをする等、全体として見やすく分かり易い表現に努めること。

⑤ 火葬炉棟建築の設計支援設業務委託に関する見積書（人工）の算出（任意様式）。

基本設計期間（約4ヶ月）及び実施設計期間（約11か月）の間に、建物の実施設計を行う建築設計事務所に対し、技術協力を行う場合の設計支援業務に関する工程の内訳を作成し、内訳毎の人工を提示すること。金額の提示は必要ない。なお、人工については東京都の設計業務委託等技術者単価における技術者の職種を用いて記載すること。

(2) 書式について

- ① 様式の指定がなく、技術提案書等のため作成する書類（任意様式等）については、文字を横書きとし、文字サイズは10.5pt以上とすること（図表中の記載はこの限りでない）。枚数、行数、カラー仕上げ、用紙方向等は自由とするが、用紙サイズはA4判又はA3判とすること。
- ② 提出書類は、A4縦ファイルに様式5-2を表紙として一括綴りし、一括通し番号のページを用紙下部に入れ、片面印刷とすること。また、項目ごとにインデックスまたは見出しを付けること。A3判については、A4判になるように折り込むこと。なお、製本方法及び用紙は自由とする。ファイルの表紙、背表紙には、「東京都瑞江葬儀所火葬炉設備技術提案書」の表題と、整理番号を記載すること。
- ③ 添付書類は、該当する様式に続けて綴ること。

4 設備計算書等について

(1) 提出書類

- ① 設備計算書等表紙（様式 5 - 3）
- ② 火葬炉設備設計計算書（任意様式 A 4 判縦）

以下の事柄に留意すること。

- a. 再燃焼炉の容積計算について、計算式と図で説明すること。
 - b. 各設備の余裕率の根拠を説明すること。
 - c. 最大排ガス量については、要件「1 2 燃焼計算区分」のⅡ区分において発生すると思われるが、Ⅱ区分のうちでも最も排ガス量が多いと考えられる時点においても再燃焼炉の排ガス滞留時間が 1 秒以上であることを説明すること。
 - d. 計算式の記載について、ある数字を他の計算結果から引用しているときは、引用元を明示する、色分けをする等、全体として見やすく分かり易い表現に努めること。
- ③ 燃料・電気使用量計算書 ※保証できる値を示すこと（任意様式 A 4 判縦）。

1) 火葬実績に関する数値（様式 7）

都市ガスを燃料とする 1 炉 1 排気系列方式の火葬炉を備えた施設における次のデータについて、施設名を明記のうえ実績を提出すること。なお、いずれも直近の 2 4 か月（時期は任意）における実績と、当該施設における副葬品やドレッキ作業の有無について事実を記載すること。

- a. 1 体当たりの都市ガス使用量
 - b. 1 体当たりの火葬時間（主燃焼炉バーナ着火から主燃焼炉消火まで）
 - c. 2 4 か月のうちで最も時間のかかった火葬の時間と要因について分析し説明すること。
 - d. 年間火葬数、火葬炉数
- ④ 設備図面（任意様式 A 3 判横）

現時点では建物設計を行っていないため、本提案の設備においては次の条件により作図するものとする。縮尺を記載できる図は明記すること。次の「④各種設備の詳細図」も同様とする。

[作図条件]

a. 高さについて

2 階建てとし、1 階床面から 2 階床面までを 5. 0 m とする（地盤面から 1 階床面までの高さは 0. 2 5 m とする）。地盤面から排気筒出口までの高さは 1 4. 9 m 以内とする。

原則として 1 階に火葬炉本体を置き、2 階に集じん装置や排気筒を置く。本計画では水害を考慮し主要動力盤等は 2 階床面より 0. 5 m 高い位置に設置する計画である。また、運転監視室や残骨灰・飛灰処理機械室等の諸室については、必要な面積を確保した上で 1 階の火葬炉本体の裏側（炉前ホール側から見て）に炉の配置に並列に置くこと。

b. 炉の配置について

1 炉に対し告別室兼収骨室を設置し、10基すべての火葬炉が告別室兼収骨室に対して並列に配置すること。炉間ピッチは6.0mとする。

c. 作図について

炉の運転業務や定期的なメンテナンス、設備の修繕、将来的な改修工事に支障がない範囲で最小設置面積及び最低排気筒高さとなるよう作図すること。高さを抑えるために2階床面の一部を低くする等の工作をしないこと。また、本提案において最小の面積・最低の高さであることの説明をつけること。なお、梁や柱は現時点で考慮する必要はない。

- 1) 火葬炉設備設置にかかるフローシート（1系統について記載）
 - 2) 火葬炉設備平面図、立面図
 - 3) 火葬炉構造図（材質などの区分けを分かり易く表現すること）
 - 4) その他火葬炉設備の提案に必要な図面
- ⑤ 各種設備の詳細図（A3版横）及び機器仕様（任意様式 A4判縦）
- 1) 燃焼設備（主燃バーナ、再燃バーナ、燃焼付属機器等）
 - 2) 燃焼用空気送風機
 - 3) 排ガス冷却設備
 - 4) 集じん装置（バグフィルタ、付随装置）
 - 5) 排気装置（排風機、排気筒）
 - 6) 灰処理設備（残骨灰処理設備、飛灰処理設備）
 - 7) 運搬車・台車（柩運搬車、炉内台車運搬車）
 - 8) その他火葬炉設備の提案に必要な図面
- ⑥ 電気・計装図面（任意様式 A3判横）
- 1) 電気設備容量計算書及びシステム運転時負荷計算書
 - 2) 制御シーケンス図
 - 3) 制御及び計装一覧表
 - 4) 中央監視盤、炉操作等必要な盤類の形態図及びシステム内容
 - 5) その他火葬炉設備の提案に必要な図面
- ⑦ 工事概算参考見積書（様式8-1）、工事概算参考見積内訳書（様式8-2）
- ⑧ 運営体制調書（様式9）
- ⑨ 運転指導及び教育体制（任意様式 A4判縦1枚程度）

(2) 書式について

- ① 様式の指定がなく、設備計算書等のため作成する書類（任意様式等）については、文字を横書きとし、文字サイズは10.5pt以上とすること（図表中の記載はこの限りでない）。枚数、行数、カラー仕上げ、用紙方向等は自由とするが、用紙サイズはA4判又は

A 3判とすること。

- ② 提出書類は、A 4縦ファイルに様式5-3を表紙として一括綴りし、一括通し番号のページを用紙下部に入れ、片面印刷とすること。また、項目ごとにインデックスまたは見出しを付けること。A 3判については、A 4判になるように折り込むこと。なお、製本方法及び用紙は自由とする。ファイルの表紙、背表紙には、「東京都瑞江葬儀所火葬炉設備設備計算書等」の表題と、整理番号を記載すること。
- ③ 添付書類は、該当する様式に続けて綴ること。

以上